

行政サービス向上と町民参画を目指して

八溝杉が特徴的な新庁舎落成

(2017年9月23日落成、10月10日開庁)



庁舎(南東方向から)



庁舎全景と街並み(ドローン撮影)



利便性の良い窓口

1階部分は町民の方の利用頻度の高い部署を集約。窓口はローカウンターを設置、来庁者に利用しやすくしています。



庁舎(南西方向から)

環境への配慮

自然採光をいかし、照明の消費電力削減と窓に複層ガラスを採用して熱負荷の低減を図っています。また、屋根面の雨水を再利用し、トイレの洗浄水等に活用した節水を実現しています。



庁舎(正面)

防災拠点

庁舎に備わっている自家発電機は、災害や停電時にも庁舎機能が維持できるように、最長72時間まで運転可能な燃料を備蓄しています。災害時は庁舎内に災害対策本部を設置し迅速な災害対応を目指しています。



役場受付窓口

新庁舎は、誰もが利用しやすく町民に親しまれることを基本に、1階に窓口機能を集約。利便性の向上を図り、妊婦さんやお子様連れの方、高齢者にも安心してご利用いただけるようにしています。建物は、東日本大震災や過去の災害の教訓をいかし、町民の安全を確保するため、様々な防災機能を持たせています。また、複層ガラスの採用による空調の消費電力の削減、雨水の再利用など、環境にも配慮しています。



執務室 柱を少なくし、来庁者に分かりやすい見通しのよい空間となっています。



議会ゾーン 議場等の議会会議室を2階東側のフロアに集約し一定の独立性を確保、議場の机等は可動式となっており、災害時の一時避難などにも対応できるようにしています。



八溝杉

栃木県・茨城県・福島県の県境に、標高1022mの八溝山があり、この周辺の山々は八溝山系と呼ばれます。この八溝山系で伐採された材木は「八溝材」といい、八溝杉はその一つです。この地域では江戸時代から森林の保護育成が行われ、明治末期には急速に造林が進みました。関東きつての良材である八溝杉は主に建築用材として使用されています。新庁舎も町内の大山田上郷菅沢町有林にある樹齢50〜60年の杉を2階部分の柱や梁の構造材、庁舎内の羽目板やカウンターの天板等の内装材に活用し、温かみのある空間を作り出しました。